

令和4年度大内こども園評価書

1 施設の概要

施設名	東かがわ市立大内こども園			園長	谷口 美香		
住所	〒769-2605 東かがわ市中筋367番地1			TEL	(0879) 25-3777		
				FAX	(0879) 25-3805		
HP				E-mail	mlw4101@city.higashikagawa.lg.jp		
園児数 学級数等 (R4.5.1)	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
	4名	17名	19名	35名	41名	36名	152名
	1学級	1学級	2学級	2学級	2学級	2学級	10学級
職員	園長 副園長	1名 1名	保育教諭	27名	保育教諭 補助員	5名	庁務員 1名
園教育・保育 目 標	心豊かで心身ともにたくましく生きる子どもの育成						
経営の重点	<p>1 乳幼児の心身の発達、家庭、地域の実情に即した編成を行う。</p> <p>2 乳幼児を取り巻く社会変化や保護者のニーズに対応し、健康な心と体の育成、生きる力の基礎を育むことを重視した編成を行う。</p> <p>3 個の発達や生活体験を考慮した上で、乳幼児一人一人の特性に応じたねらいや内容を設定し、それらを総合的に達成できるように0歳児から5歳児までの長期的な視野をもって編成する。</p> <p>4 職員研修の充実を図り、専門家としての資質向上に努める。</p> <p>5 資質向上をめざすための働きやすい環境づくりに努める。</p>						
指導の重点	<p>1 家庭や地域の実情を把握し、健康で安全な生活をすすめる力をつける。</p> <p>2 様々な体験活動を通して、豊かな心や体力づくり・挨拶など基本的な生活習慣の確立を目指す。</p> <p>3 個人差に配慮しながら、0歳児から5歳児までの長期的な発達を見据えた目標を持ち、遊びこめる子どもを育てる。</p> <p>4 職員の実態に応じた研修により、職員の資質向上に努める。</p>						
学びに関する 内容 (R5.3 見込)	総保育時間数						
	3歳児	1,155h	5.5h×42週				
	4歳児	1,183h	5.5h×43週				
	5歳児	1,155h	5.5h×42週				

2 園教育評価

	評価項目	自己評価	学校関係者評価
確かな学びの定着	◎基礎的・基本的な学びの定着、伸長のための適切な指導が計画的に行われているか。		
	育てたい子どもの姿と子どもの興味・関心を重ねた保育を計画している。	A	B
	子どもの年齢や発達に応じた環境構成や教育・保育内容である。	B	
	子ども一人一人の思いや考えを大切に、生活への意欲につながる取り組みをしている。	B	
	子ども自ら関わろうとする園内環境の工夫をしている。	B	
心豊かな温かい人づくり	◎豊かな心を育み、正しい規範意識と生活習慣を身に付けた子どもの育成が図られているか。		
	遊びや生活を通して、様々な感情体験を重ねている。	B	A
	保育者が子ども一人一人の気持ちや思いを受け止め、寄り添う関わりをしている。	B	
	基本的な生活習慣確立に向けた取り組みの工夫をしている。	A	
	規範意識や豊かな心情を育むために、絵本等の教材を効果的に取り入れている。	B	
たくましく生きる力の育成	◎様々な体験を通して、心身ともに健康でたくましく生きる力を培うことができているか。		
	子どもの実態や年間計画に沿って、継続的・計画的な食育・保健衛生指導を行っている。	A	A
	体力づくりや園外活動等の取り組みを通して、健康な心身の育成につなげている。	A	
	家庭と連携した生活習慣の形成を図っている。	B	
	生活・交通安全意識を高めるための取り組みを計画的に行っている。	B	
教職員組織と研修	◎教育・保育課題を達成するため教職員組織や指導力を向上させるための研修内容になっているか。		
	教育方針や活動内容を園・クラス等の便りを通して分かりやすく発信している。	A	A
	保育者自身が意欲的に研修に参加できるよう内容を工夫し、指導力の向上を図っている。	A	
	子どもの育ちを支えるための保育内容や環境構成を考え、工夫しようとしている。	B	
	危機管理の面での研修を計画的に実施している。	A	
教職員の働き方改革	◎教職員のワーク・ライフ・バランスを考慮した業務の適正化等が図られているか。		
	経験年数など考慮し、できるだけ分掌組織がバランス良くなるよう努めている。	B	B
	研修体制を見直し、保育者の資質向上を図っている。	A	
	職員同士が互いに協力し合い、負担軽減したり業務改善したりしている。	B	
	様々なアンケート等で、保護者から意見を聞き、行事や参観、その他の取組の改善に生かしている。	A	

保護者・地域との連携	◎園教育の充実のために保護者や地域との連携協力が図られているか。		
	園・クラス便り、園メール等を通して、園からの情報公開をしている。	A	A
	支援センター活動が地域の子育て支援につながる計画・実践となっている。	B	
	保護者、関係機関等との連携に努め、教育・保育活動の充実に努めている。	B	
	職員は、保護者からの相談に適切に応じている。	A	
施設・設備	◎園児が安全に楽しい園生活を送れる施設・設備になっているか。		
	教材や遊具等の定期点検や整備を行い、安全な生活を送れるようにしている。	B	B
	清掃や緑化に努め、衛生的、機能的な環境の保持に努めている。	A	
	不審者や災害等の危機への対応に努めている。	B	

評価 [A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや改善の必要がある D : 改善の必要がある]

3 成果と課題 [○成果 ●課題]

<p>○体力づくり・挨拶運動など計画的に実施し、家庭とも連携を図ってきたことで、子どもの意欲と成果につながってきた。</p> <p>○基本的な生活習慣や遊びの環境など、各学年の発達を踏まえ、必要な支援方法や環境設定について職員全員で考え合ってきたことで、課題解決につながり、保護者の悩みにも寄り添えるようになってきた。</p> <p>○職員の実態に応じて、香川県の学校防災アドバイザー派遣事業・幼児教育支援員など外部講師を活用し、実践研修を計画的に行ってきたことで、危機管理対応が分かったり保育の中で活用したりすることができた。</p> <p>●地域との直接体験の場や挨拶運動などを通して、子どもの健やかな育ちにつなげていく必要がある。</p> <p>●家庭と連携を工夫しながら、基本的な生活習慣の確立に向けていくことが大切である。</p> <p>●職員の業務の効率化を図っていく必要がある。</p>
--

4 来年度の経営の重点

<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが主体的に遊びこむことができる環境や援助の在り方を探る。 2 0歳児から5歳児までの発達を踏まえ、家庭と連携を工夫しながら基本的な生活習慣の確立を目指す。 3 研修や事務等にICTを活用し、業務の効率化に努める。

5 来年度の指導の重点

<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが主体的に遊びこむための、環境や指導の改善を図る。 2 各年齢の発達を踏まえ、長期的な計画の中で基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。また家庭・地域等との連携を工夫する。 3 職員の研修・事務等の軽減と効率化。
